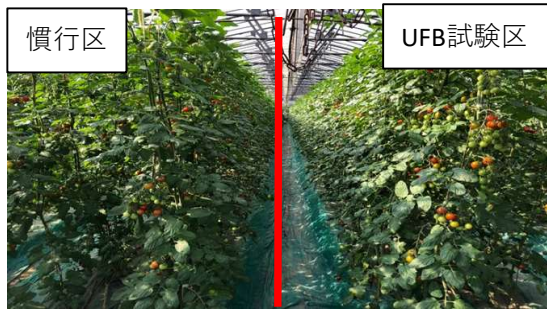


テーマ：ウルトラファインバブルによるトマト収穫重量の増加



トマトハウスでの比較検証

	試験区(10a)		慣行区(20aの平均)		
収穫日	コンテナ数	重量(kg)	コンテナ数	重量(kg)	試験区/慣行区(%)
計	369.9	4,624	327	4,088	113%

↑比較結果

ウルトラファインバブル発生機 →



【 社会的な課題 】

農業において、作物の収穫量は収益に直結するため多くの生産者が試行錯誤しながら独自の工夫を取り入れているが、消費者ニーズの多様化に伴い顧客からも品質や提供量など要求される内容が高度になってきている。

【 取組み内容 】

トマトの育成に用いる灌水用の水や液体肥料中にウルトラファインバブルを発生させ作物に与えることで、従来よりも1玉あたりのサイズを増加させることができ、収穫重量の増加による収益UPに繋げることができた。

【 ファインバブルの作用・原理 】

ウルトラファインバブル水の供給により作物の根張りが良好になることが確認されている。加えてバブルの表面が帯電していることによる養分の効率的な吸収がなされることで、作物が従来持っている成長能力を十分に発揮させることができた。

【 使用機器 】

ウルトラファインバブル発生機UP400M。
モータ駆動のウルトラファインバブル発生ポンプ。従来の農業用ポンプをベースにした発生器として使い勝手はそのままにウルトラファインバブルの効果を得ることができる。

【 各種効果 】

- 収穫重量の増加
- 収穫重量約10%UPによる収益の増加
- 病気発生率の低下による歩留まりの改善と品質のばらつきの低減